

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

神辺西中学校区	校番 36	福山市立神辺西中学校
最終更新日		2023年(令和5年)4月14日

I 福山市	<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>
-------	---

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>1 長期欠席者の減少に向けた取組の推進。</p> <p>2 学力調査結果を分析して具体的な改善策を確認して成果につなげる。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸びを図る調査について、中2・3国語、中2英語を除いた他の教科は市平均を下回った。 ・小中ともに「四つの心得」を意識して生活し、自己指導力の向上に努めている。 ・スポーツテストについて、県平均を超えた種目は1年生男子は4種目、2年生男子は5種目、3年生男子は6種目である。1年生女子は6種目、2・3年生女子は5種目である。授業・体育の行事において体力向上に努めている。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>スキル：・自己を認識する力・自己選択できる力 ・表現力</p> <p>倫理観：・粘り強くやり切る力 ・挑戦し続ける力 ・空間認知力</p> <p>知：自分の考えを持ち伝え合う子 徳：人の気持ちがわかり協力できる子</p> <p>体：健康でねばり強い子</p> <p>・生徒による生徒指導規程の見直しの継続</p> <p>・神辺西中学校区でめざす授業の姿を共有(主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の実施)</p> <p>・神辺西中学校区における「21世紀型“スキル&倫理観”」の評価基準による個に応じた指導の実施</p>
---	---	--	---

III 自校

ミッション
学んでよかった、学ばせてよかった、働いてよかったと思える学校

学校教育目標
「挑戦」 鍛える 支える トライ&エラーを繰り返し、自分で決めた目標に向かって何度でも挑戦する生徒の育成

現状
<p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「四つの心得」(あいさつ・言葉遣い・掃除・時間厳守)の取組について、88.8%の生徒が肯定的評価をしている。 ・長欠不登校生徒(傾向を含む)および教育上特別の配慮が必要な生徒が増加傾向にあり、抱えている状況も多様化・複雑化しており、家庭、SC、SSW、関係機関等と個々に応じた連携を行い継続支援中である。 ・自己肯定感 75.7%、学校満足度 93.7% <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学力の伸びを図る調査」において、中2・3国語、中2英語を除いた他の教科は市平均を下回った。習得した知識・技能を実生活に活かす活用力及び自分の考えを文章で表現する力に課題がある。また、無答率も高く粘り強く取り組むことが苦手な生徒が多い。 ・基礎学力の定着を図り「分かった」「できた」と実感でき、実生活に繋がる授業を意識した結果、「授業が分かる」の肯定的評価は80.1%。また、「私は、タブレットを自分の理解度に合わせて使っています」の肯定的評価は、88.0%。しかし、「もっと学びたい・考えたい」71.4%、「課題解決を多様な方法で考える」66.8%。であり、主体的な学びにICTを効果的に十分活用できていない状況がある。個の学びに応じた多種多様な学びの方法を考えていく必要がある。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	自己を認識する力・自己選択できる力	表現力	粘り強くやり切る力	挑戦し続ける力	コラボレーション力
めざす子ども像	自らのよさを理解し夢や目標を持ち、自ら考え、選択し、自らの意志で決めることができている。	自らのことや自らの意見などを、相手や場面に応じて、言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら自信をもって伝えることができる。	困難なことにも自ら友だちと協力し合い、競い合いながら、あきらめることなく何度も取り組んでいる。	様々なことに対して、変化や多様性を理解し、しなやかに対応している。	自らのよさ、目標、考え、選択、表現方法等を客観的に捉え、友だちと共に、よりよいものになっている。
研究	テーマ	「学びが面白い」と実感する「子ども主体の学び」づくりの創造			
	主題・内容等	<p>「個に応じた多様な学びにより、生徒主体の学びの創造」</p> <p>～認知のしくみを視野にICT機器の効果的活用～</p> <p>・「どう教えるか」から「子どもたちがどう考え学ぶか」の視点への授業観の転換</p> <p>・リアル&デジタルを意識した個に応じた支援の充実</p>			
めざす授業の姿		<p>1 基礎学力の定着を図り「分かった」「できた」と実感でき、実生活に繋がる授業</p> <p>2 課題発見・解決力の育成をめざす授業(探究的な学習カリキュラムの編成・実施)</p> <p>3 主体的・対話的で深い学び(「考えたい」「話し合いたい」「学びたい」)を引き出す授業(ペア・グループでの対話やリアル&デジタルを意識した授業)</p>			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立神辺西中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	70%以上 達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上 達成評価	総合評価	改善方策	
2	「生徒主体の学びの創造」により自ら考え学ぶ生徒の育成。	★	継続	①基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、その活用力・表現力を付ける。 [昨年度：19.8%]	○すべての教科で活用問題、文章表現による課題解決問題を取り入れた定期試験を実施、40点未満の生徒割合を把握し、授業改善に取組む。	○定期試験40点未満の割合を15%以下にする。 ○「定期試験において、授業で勉強した事柄をいくつか組み合わせて、解く問題があります」の肯定的評価を80%以上にする。								
			継続	②デジタル技術を活用した個に応じた学びの推進。 [昨年度：88.0%]	○授業や家庭学習で、ロイロノート等を利用する。 ○ロイロノート等利用状況を把握し、達成度を確認する。	○授業と家庭学習で使用するにより、「ICTを自分の理解度に合わせて使っています」の肯定的評価を80%以上にする。								
			継続	③探究的な学習カリキュラムの編成・実施。 [昨年度：各教科においてSDGsの観点を踏まえて実施]	○総合的な学習の時間において、探究的な学習カリキュラム(SDGs)を編成実施する。	○「授業の中で、自分で課題を立てて、情報を集め整理して、調べたことを発表している」の肯定的評価を75%以上にする。								
			継続	④「どう教えるか」から「子どもたちがどう考え学ぶか」の視点への授業観の転換を組織的に推進する。 [昨年度：一斉研修において議論した。校内研修時に教科会を実施]	○子ども主体の新しい学びづくり案を活用した研修(校内研修、一斉研修、教科会)・授業提案を実施する。	○月間行事予定表に、教科会を計画し、定期的実施する。 ○理論研修だけでなく、授業提案をもとに、議論する。								
5	新体力テストの県平均以上の種目率を高める。		継続	⑤自己課題を見つけ各学年において、新体力テスト県平均以上の種目を6種目以上とする。	○体育の授業で運動のポイントを見つけさせ、よりできたことを実感できる授業づくり。	○新体力テストの実施結果において県平均を超えた種目率70%以上を目指す。								

5	社会人基礎力を身に付け社会に出て活躍する生徒を増やす。		継続	⑥「四つの心得」(挨拶・言葉遣い・掃除・時間厳守)の定着を図る。	○「四つの心得」に関連した活動を生徒会の主体的な活動として実施する。	○生徒アンケートで挨拶・言葉遣い・掃除・時間厳守の項目における肯定的評価を90%以上にする。								
4	長期欠席生徒を減らす。	★	継続	⑦生徒にとって居心地の良い学級づくり・居場所づくりをする。 【昨年度欠席30日以上出現率5.9%】	○教育相談・サポート会議の充実を図る。組織的、計画的な取組みを展開し、ほっとルームの見直し、SC・SSWの効果的活用、HRの充実を図る。	○担任は月末1回、取組報告書・SC利用時相談カードを作成。(SC、SSW、ほっとルーム担当、主事との連携強化) ○「学級・教師との関係」に係る生徒の肯定的評価75%以上にする。(生徒アンケート昨年度72%)								
5	保護者の期待に応え、信頼される学校にする。		継続	⑧地域・保護者に対し積極的な情報公開。 【昨年度：学校満足度】 1学期96.3% 2学期93.7%	○各種たよりの発行やHPの充実による情報発信。 ○学期毎に保護者アンケートやいじめ防止アンケートを実施し、保護者の学校満足度を把握。	○学校だより、学年通信を毎月1回以上発行。HPを随時更新。タイムリーなメール配信。 ○保護者アンケートにより、保護者の学校満足度を90%以上。								
4	働き方改革による教職員の健康増進と教育の質向上。	★	継続	⑨時間外在校等時間の上限を超えない勤務。 【昨年度 %】	○早めのスケジュール提示による計画的な勤務の遂行。 ○定時退校日の確実な実施。	○時間外在校等時間「月45時間以内、年間360時間以内」の達成率85%。								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。